NIE特集

Newspaper In Education

毎月第2・4火曜日発行

どきどき小学生

荻浜小

学校名　石巻市立荻浜小学校　　校長　松浦　達夫
所在地　石巻市桃浦米久保5　　児童　22人
電話　0225（90）2124

うきうきキャンバス

ロボット　2年・柴崎海斗

読書感想画「キレイなアマモ」
5年・杉山らら

砂絵「奇跡の鳥」　卒業生・江刺紘汰

共同制作「大漁旗」
サマーキャンプ3班

ししふりを見た
3年・渡辺裕貴

川をきれいにするポスター　6年・阿部佳亜奈

方孔石の謎を探る！

奇妙な穴 自然の造形

牡鹿半島だけで発見

知り隊

わたしたちのふるさと荻浜には、非常に珍しい石があります。名前は方孔石。正方形や長方形、ひし形の不思議な穴が開いていて、奇石として国立博物館にも展示してあるほどです。一九〇〇年に発見されましたが、どうしてできたのか地元の人に聞いても評しか知っている人はいません。そこで、長年、方孔石の研究に取り組んでいらっしゃる元高校教員の菊池幸一先生にお話を伺いました。

方孔石のサンプルを見せてくれた菊池先生と、不思議な四角い穴が開いている方孔石（左下）

方孔石ができた時代は、一億四千万年～二億一千万年前の中生代ジュラ紀。恐竜がいた時代です。

発見した地元の人が東京からきていた学者に方孔石を見せたのがきっかけで、一九〇一年に「除荊の方孔石」として発表され、世間に知られるようになりました。「方」は四角、「孔」は貫通した穴という意味です。

方孔石には、石ころのような固まりのノジュール（団塊）型、穴の周りが筒状のパイプ型、岩に直接穴があいている魂状の三種類があります。穴の形は、ひし形や長方形、正方形などさまざまです。

複数の穴を持つものもあります。一つのものが多く、大きさは平均直径五センチ。長年謎だった方孔石の穴のでき方が最近明らかになりました。まず玄能石というのが出にぎりの梅干しのように周りの土に囲まれ、石の中に別の石があるような状態になります。そして、中に入っていた玄能石が、カルシウムの成分に変質して、長い年月をかけてとけ出し、なくなってしまいます。それで不思議な穴が開いたわけができあがります。

玄能石の実物を見せていただきました。確かに細長く角張った石で断面は方孔石の穴の形と同じように四角くなっていました。

方孔石は、牡鹿半島のジュラ紀の地層の数十㍍の幅だけに見られます。この地層が露出しているのは、荻浜中学校前の海岸や、女川町の竹の浦などだけです。

◇　◇

外国では方孔石は発見されていません。なぜ牡鹿半島だけあるのか、まだまだ研究の余地があるとのことでした。菊池先生が「大人になっても不思議だという気持ちを忘れないでほしい」と熱くお話していたのがとても心に残りました。

文・江刺紘汰、渡辺裕太（卒業生）伏見渉（6年）

教え隊　サマーキャンプ

海と山 全児童が満喫

サマーキャンプで、沖の船から飛び込み遠泳に挑戦

わたしたちの学校には、サマーキャンプという行事があります。サマーキャンプは、全校児童で1泊2日、学校にテントを張って泊まります。学校の周りは、海と山の大自然。船での釣り大会や寺での座禅、海での遠泳など自然を目いっぱい楽しみます。特に遠泳では沖まで泳いでいって船から飛び込んだり、海底に潜って泳いでいる魚を見たりします。このサマーキャンプは、荻浜小ならではの自慢の行事です。

文・内海岬（卒業生）、阿部佳亜奈（6年）

編集後記

今まで書いたことのない新聞記事を書くのは、タイトルの通り、とても「どきどき」しました。

でも、実際に取材が始まると、現地に行ったり、インタビューをしたりして、自分たちもあまり知らなかったことをたくさん知ることができました。

今回の新聞作りを通して、協力することの大切さや新聞を作る難しさを知りました。

七人と少ない人数での作業は本当に大変でしたが、一つの記事が完成するたびにとてもうれしくて、やってよかったと思いました。

△編集委員▽渡辺裕太、内海岬、阿部華邑、江刺紘汰、渡辺彩織（卒業生）伏見渉、阿部佳亜奈（6年）　題字デザイン　伏見渉（6年）

△担当教諭▽安倍浩一（現湊小）、鈴木敏朗

言い隊

■ 道でのポイ捨て迷惑 ■

県道石巻鮎川線、わたしたちの地域を通る一番大きな道路です。普段あまり車は通っていません。でも、道端などに見えないようにごみが捨てられています。町中などよりもずっと多く見られます。人通りが少ないからか、人が見ていない時に捨てたりしているのかと思うと悲しくなります。ほかの人にも迷惑がかかります。環境の保護のためにもごみを捨てないようにしたいです。

ごみ箱などに捨ててほしいです。人が見ていないから捨てて良いとは思いません。一人一人がポイ捨てをしないように気をつけなければならないと思います。

（卒業生・渡辺彩織）

■ 車と人 ゆずり合いを ■

ものすごいスピードで走り去った車。通り過ぎてからきた風が、音がするほどでした。決められた速度を厳守して、はるかに速いスピードだったことを覚えています。こんなことがあると、いつ交通事故があってもおかしくありません。

事故を起こしてから悔やんでも遅いと思います。決められた速度を意識して守るように心がければ、信号無視も無理な追い越しも防げると思います。

歩行者も、たとえ信号が青でも左右確認をすることが自分の身を守ることになると思います。運転者と歩行者、ゆずり合い思いやりの気持ちをもてば自然に、交通事故が減るのではないでしょうか。

（卒業生・阿部華邑）

次回（5月12日）は雄勝小（石巻市）と木町通小（仙台市）です

新聞作りに参加する小学校を募集しています。申し込みや問い合わせは河北ＮＩＥ推進事務局022（211）1331へ。